

令和 7 年度 第一長崎慈光園地域連携推進会議 議事録

開催日時 令和 7 年 11 月 13 日(木) 13:00～15:00

開催場所 長崎慈光園 本館2階会議室

司会 山田直子 記録 森山健吾

1. 園長挨拶

第一長崎慈光園 園長の森と申します。本日は、お忙しい中、長崎慈光園へ来園いただき誠にありがとうございます。皆様の貴重なお時間をいただき、この場を設けさせていただけたことを深く感謝致します。

2. 会議趣旨説明

障がい者支援施設及び共同生活援助(GH)において、事業所運営の透明性を高め、福祉サービスの一定の質の確保をするために、施設の外部の方が参画する「地域連携推進会議」を、年 1 回以上開催することが令和 7 年度から、義務づけられることとなりました。

〔目的〕

- ①ご利用者と地域との関係づくり
- ②地域の方々に、施設やご利用者の障害についてのご理解を深めていただく
- ③施設が提供するサービスの透明性・質の確保
- ④ご利用者の権利擁護

上記の目的を効果的かつ確実に達成するため、施設と地域が連携することにより、地域の方々にも、施設の運営を知っていただき、ご要望や助言をいただきながら、ご利用者が地域の一員として、ご自身の意向が反映された生活を送っていただけるよう施設側も改善を図っていきます。

3. 参加者紹介

- ・川棚町役場 住民福祉課 社会福祉係 岡積純子 様
- ・川棚町民生児童委員協議会 高嶋勝 様
- ・第一長崎慈光園 利用者ご家族 飯尾元昭 様
- ・第一長崎慈光園 利用者様 男女 2名
- ・第一第二長崎慈光園 園長 森節子
- ・第一長崎慈光園 サービス管理責任者 野沢栄二郎
- ・第一長崎慈光園 参事 山田直子
- ・第一長崎慈光園 班長 森山健吾
- ・第一長崎慈光園 副主任 尾崎園美
- ・第一長崎慈光園 支援員 中尾喜大

4. 第一長崎慈光園の紹介

○ 事業内容

- ・「施設入所支援（ゆったり）」「生活介護（ほほえみ）」「短期入所」の3事業を展開。
- ・施設入所支援：定員50名、現入所47名（男性22名・女性25名）。
- ・生活介護：定員50名、利用者47名。

○ 運営方針

- ・高齢者・強度行動障害のある利用者へ専門的知識・技術で支援。
- ・看護師配置、医療機関連携による健康管理。
- ・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士と連携しリハビリ実施。

○ 利用者状況

- ・平均年齢57歳8ヶ月。60～75歳は女性が多い。
- ・多くが長崎県内出身。
- ・障害支援区分：区分6が半数以上で重度者が多い傾向。

○ 日中活動（ほほえみ）

- ・写真フレーム作成、個別ワーク（ストロー差し・型はめ等）、集団ゲームを実施。
- ・集中できる環境整備。

○ 夜間支援（ゆったり）

- ・17:00～翌9:00、入浴・排泄・食事の介護を提供。
- ・夜勤者：男性1名・女性1名。緊急時対応マニュアル整備。

○ その他の活動

- ・セブンイレブン移動販売（2ヶ月に1回）、誕生会、紙芝居、健康教育、太鼓セラピー。
- ・夏祭り、紅葉祭、運動会、忘年会などの大型行事。

○ 短期入所事業

- ・近年、強度行動障害など重度の方の利用希望が増加。

○ 資料の取り扱い

- ・個人情報を含むため、関係者外秘として取り扱うよう回答。

5. 施設内見学

- ・男性棟：輪投げ
- ・女性棟：クリスマスツリー用リース作り

6. 施設内見学等の振り返り

○ 施設の照明とWi-Fi設備に関する質疑

- ・ 照明について
 - ・施設の照明の色（オレンジ色、白色）はコスト削減の結果であり、意図的な使い分けではない。
 - ・利用者から「眩しい」という意見があった箇所のみ対応を試みた。
- ・ Wi-Fi設備について

- ・施設内の Wi-Fi は業務用の PC、タブレット専用である。
- ・個人情報漏洩防止のため、利用者や職員の私的なデバイスでの利用は許可されていない。

○ 組織体制と今後の業務義務化について

- ・ 組織体制
 - ・職員の異動による担当者の変更はあるが、組織的な大きな変更はない。
 - ・地域連携の専門職員は人員不足のため配置しておらず、主に役職者が会議等を担当している。
- ・ 地域移行等意向確認(意思決定支援)の義務化
 - ・令和 8 年度から、利用者の地域移行への確認業務が義務化される。
 - ・これにより現場の業務負担が増加することへの懸念が示された。
 - ・義務化される業務の詳細や、現場への影響度はまだ不透明な部分が多い。
 - ・行政からの指示が現場の負担を増やし、職員のモチベーション低下に繋がらないかという懸念が共有された。

○ 新型コロナウイルス後の地域交流について

- ・ 現状の課題
 - ・感染症のリスクは依然として存在し、外部との大規模な交流イベント(運動会など)の開催が難しい状況。
 - ・車椅子利用者などが地域の行事に参加するには、マンツーマンでの職員の付き添いが必要となり、人間的な制約がある。
- ・ 今後の展望
 - ・地域との断絶は望んでおらず、可能な範囲で活動を広げていきたい意向がある。
 - ・文化祭への作品出展など、創作活動を通じた交流を再開していきたい。
 - ・来年度に向けて、何らかの形で地域交流を再開できないか検討中である。

7.次回以降の議題提案:施設の安全対策

- ・ 提案内容
 - ・災害(地震、火災)、防犯、情報セキュリティなど、施設の総合的な安全対策について知りたいという要望があった。
 - ・消防訓練や避難訓練は隔月 1 回、地震災害訓練は年 1 回実施している。
 - ・防犯訓練も年 1 回、警察の協力を得て実施している。
- ・ 結論
 - ・次回以降の会議で、施設の安全対策(BCP 含む)の現状と今後の計画について報告し、意見交換を行うことになった。